

労災事故の増加傾向が止まりません。

☆死亡災害は5名(+3名)発生しました。

☆死傷災害は63名(6.4%)増加し1044名となっています。

神奈川県労働局の集計によると、令和2年12月末(1月1日から12月31日)における県内の陸運業の労働災害発生は令和元年同期と比較し次のとおりとなっています。



用語の説明は支部
ホームページ参照!

- ◇ 死亡災害は 交通事故2名、トラックとプラットホームにはさまれ、高架橋から墜落、過重労働が各1名。
- ◇ 死傷災害は 道路貨物運送業では33名(+4.4%)増加しており、陸上貨物取扱業では30名(+12.9%)増加と両業種で増加しています。

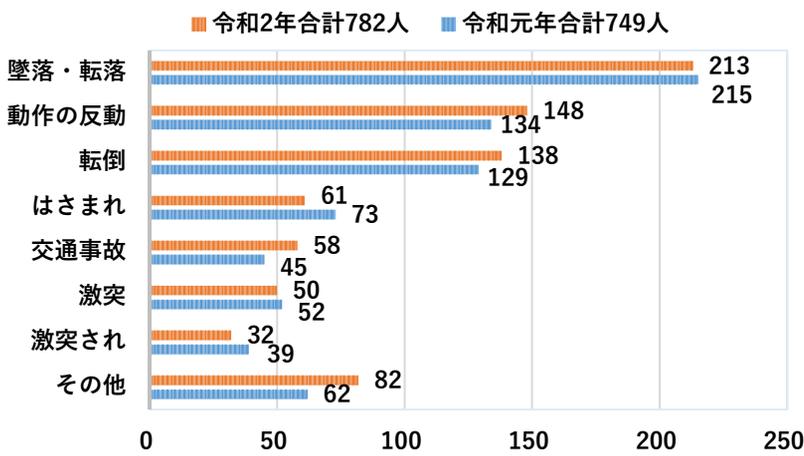
1. 概況 (神奈川県内) 陸上貨物運送事業全体 (道路貨物運送業+陸上貨物取扱業)・・・(事故の型ワースト6+交通事故)

事故の型	墜落・転落	動作の反動 (腰痛等)	転倒	はさまれ・ 巻き込まれ	激突	交通事故	激突され	その他	合計
発生件数	242	211	202	84	69	62	57	117	1044
対前年増減	+3	+15	+17	-16	+3	+12	-8	+37	+63
同上増減率	1.3%	+7.7%	+9.2%	-16.0%	+4.5%	+24.0%	-12.3%	+46.3%	+6.4%

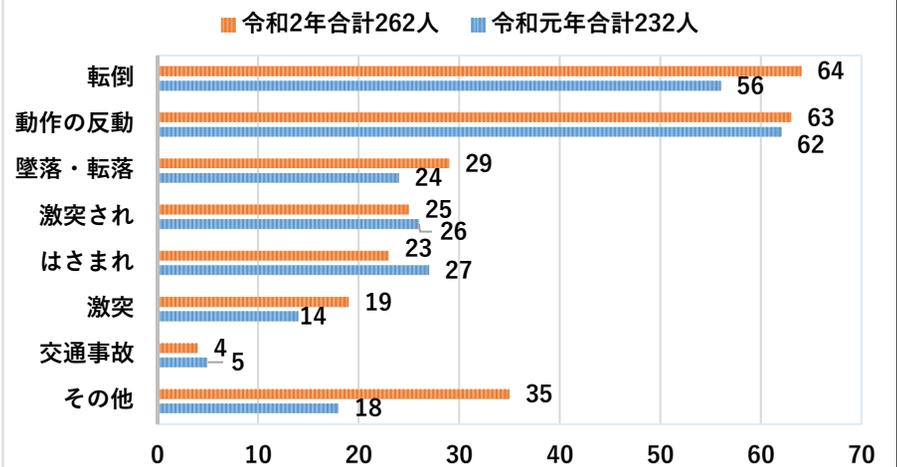
◎ 労災事故が過去最多状態の危機的状況が続いていることを労使で共有し、荷役作業を中心にあらゆる対策を講じて労災事故を撲滅しましょう

2. 各業種の概要

道路貨物運送業



陸上貨物取扱業



- ☆1 昨年同期に比べ+4.4%(+33名)増加して782名となっている。
- ☆2 墜落・転落が、わずかに減少したものの213名と全体の27.2%を占めている。
- ☆3 動作の反動が+10.4%(+14名)と引き続き増加している。

- ※1 昨年同期に比べ+12.9%(+30名)増加して262名となった。
- ※2 転倒災害が+14.3%(+8名)と引き続き増加している。
- ※3 動作の反動が+1.6%(+1名)と引き続き増加している。

3. 死亡災害発生概要 (陸上貨物運送事業関係)

陸災防神奈川県支部収集

番号	発生地	年月日 曜日 時刻	事業の種別 労働者数 職種	起 因 物 事故の型	発 生 概 要
1	—	2.3. — 9時頃	道路貨物運送業 ~9名 運転者	起 因 物 な し その他	荷主構内でトラックに荷積み中、心筋梗塞を発症し10日後に死亡した。その後の調査で、長時間労働による過重な業務に従事していたと認められたもの。
2	海老名市	2.6.17 (水) 3時頃	陸上貨物取扱業 100~299名 運転者	トラック 交通事故	赤信号停車中の車列に10トントラックが突っ込んで合計4台の玉突き事故となり、車列最後尾にいた被災者の3トン車が、突っ込んだトラックと前方の大型トレーラーに挟まれ、運転席が大破したものの。当該事業場は、陸上貨物取扱業の配送部門である。
3	横浜市	2.9.17 (木) 18時頃	道路貨物運送業 10~29名 運転者	トラック 交通事故	荷主に書類を届けた後、自車の駐車場所まで戻ろうと道路を徒歩で横断した際、路肩に駐車していたトラクターヘッドが後進してきて被災者を轢いたもの。
4	東京都	2.10.4 (日) 12時頃	道路貨物運送業 30~49名 運転者	トラック はさまれ、 巻き込まれ	配送センターで4トントラックに荷を積み終えてテールゲートリフターを格納した際に、10トン車用プラットホームの高さに合わせるための台木に載せていた後輪が台木から落ちて、後進した車体とプラットホームの間に被災者が挟まれたもの。
5	横浜市	2.11.10 (火) 4時頃	道路貨物運送業 50~99名 運転者	建築物、構 築物 墜落、転落	配送のためトラックで国道を跨ぐ高架橋を走行中、座席に置いた書類が助手席の窓から外に飛ばされたために降車して書類を捜していたところ、高架橋から約10メートル下の国道上に墜落したものの。